

より効果的な林野火災の消火に関する検討会（第 1 回）

議事概要

1 日時 令和 3 年 5 月 27 日（木） 13:30～15:00

2 場所 中央合同庁舎 2 号館 3 階 第 1 会議室 ※WEB を併用して実施

3 出席者 別添出席者名簿参照

4 概要

(1) 主催者挨拶（消防庁国民保護・防災部長）

- ・ 我が国では毎年 1,000 件前後の林野火災が発生している。昨年度の 2 月には、栃木県足利市で林野火災が発生し、市街地に大変近いところでの発生ということもあり、大きく注目されたところである。実際に対応や応援に当たられた皆さまに、大変なご尽力をいただいたおかげで、人家への延焼は阻止され、死傷者は出なかったが、林野火災の延焼が広がると長期間にわたって消防の労力を割かれるということを改めて実感したところである。
- ・ 最近の動きとしては、ヘリによる空中消火がかなり効果的に行われるようになっていくことが挙げられる。こうしたことを踏まえて、今回の足利市を例に、林野火災のより効果的な対応について、忌憚のない意見をいただいて、取りまとめてまいりたい。
- ・ また、林野火災については、国会にも大変関心を持っていただいております、諸外国の例なども参考に、対策に取り組むべきところのご指摘もいただいている。これも踏まえ、視野を広げた検討についてもお願いしたい。

(2) 委員紹介

(3) 検討会の開催要綱及び開催趣旨等について

- ・ 【資料 1】【資料 2】に基づき事務局から説明

(4) 座長互選

- ・ 座長は小林恭一委員となった。

(5) 座長挨拶

- ・ 先日の足利の林野火災がかなり話題を集めたが、昨今、異常気象により同様の林野火災が今後も発生する可能性が高い状況だと思う。

- ・ 委員の皆様方のそれぞれの分野での知見をお寄せいただき、効果的な林野火災の消火のあり方について検討してまいりたい。

(6) 議事

① 過去の調査検討について

資料3、参考資料1～3に基づき事務局から説明

② 足利林野火災の概要等について

資料4、5、7に基づき事務局から、資料6に基づき防衛省吉川委員から、説明

(7) 主な意見及び質疑

① 資料5についての補足

【佐藤オブザーバー】

- ・ 足利市における活動について、散水活動の他にも毎朝熱源感知機能付きのヘリテレを活用して、現地対策本部に延焼状況を提供したり、指揮者等を搭乗させて現地の延焼状況の確認をしたりすることで、戦術の展開に役立てた。
- ・ 気象状況については、宇都宮気象台の協力を得て、2～3時間おきに関係機関に提供した。
- ・ 2月27日に無人飛行機がヘリの活動空域に入ってきて、活動を一時中断せざるを得なくなった。この課題については、6月1日の改正航空法施行規則の適用により、飛行制限ができるように改善される。
- ・ 報道機関の航空機が空中消火活動に影響しないように、県から飛行自粛をお願いするとともに、自衛隊の統制機からその都度規制をかけていただいたが、こちらの点についてはまだルール化はできていない。

② 資料7についての補足

【亀山オブザーバー】

- ・ 今回の出火場所は山並みの中のハイキングコースであった。入山は可能であったが、場所によっては、急勾配のため消火活動が非常に困難な場所もあった。また、25日からは、北側に延焼拡大した大岩町地内においては、数か所の消火栓が使用不能となり、月谷町地内の林道大岩月谷線では水利がなく、消火活動に苦慮するなどの影響もあった。
- ・ 気象条件については、2月16日から乾燥注意報が発表されており、特に23日の4時07分から20時55分まで、強風注意報が発表されており、平均風速毎秒4.1メートル、最大瞬間風速毎秒16メートルの強風が吹いたため、防災ヘリの散水は23日は終日停止、自衛隊ヘリの散水は10時から15時30分まで一

時停止したなどの影響があった。

【山本委員】

- ・ 指揮支援隊として活動した観点から補足する。発災の当初は、散水区域がわからず戸惑いがあったが、自衛隊により航空活動時間の割り振りがされており、指揮系統が一本化されていたため、最終的には活動に迷いはなかった。
- ・ 今後の課題としては、林野火災においては早期対応が大原則となるので、広域航空応援や緊急消防援助隊の要請を遠慮なくできるような運用等が重要であると考えている。

③ その他主な意見及び質疑

【新井場委員】

- ・ 地上とヘリの間で、どのくらいの頻度で活動状況が共有されたのか。

【布施オブザーバー】

- ・ 東京消防庁と自衛隊、足利市消防本部の情報共有は、東京消防庁が統括を頼まれたので、こちらでその日の活動の概要、明日の活動のプラン、気象状況、各活動エリアにおける延焼状況、応援要請の過不足、地上と空中消火のいずれが適しているか、といったような判断をさせていただいて、情報共有をしていた。

【小林委員】

- ・ 無線等をどのように接続して情報共有したのか。

【布施オブザーバー】

- ・ 現地対策本部の職員から現地の活動隊への連絡は、携帯の LINE も活用していた。消防は無線を活用していた。

【佐藤オブザーバー】

- ・ 自衛隊と消防防災ヘリは周波数を統一して、その中では情報は共有できていた。
- ・ 防災ヘリについては、ヘリの基地との情報がつながるため、そこと地上部隊との間での情報共有を図ることができた。

【吉川委員】

- ・ 自衛隊の場合は、自分たちが保有している無線機等を持って情報共有を行うが、自治体とのリアルタイムでの情報共有ができれば望ましいと考えている。

【小林委員】

- ・ 簡単に共有できる方法はないのだろうか。本部の役割を果たすためにも、本部を経由するほうがいいだろうと思うが、無線関係の資機材をいろんなところでうまく整えておいて、本部で中継してやるようにあらかじめ準備するということは必要であると思う。

【小林委員】

- ・ 様々な情報が入ってくる中で、重点的に延焼拡大を阻止する箇所や、消火のやり方について、本部が判断しなくてはいけない。足利林野火災の件においては、市長が方針を定めてくださっていたのでうまくいっていたが、なかなか難しいオペレーションであると思う。

【亀山オブザーバー】

- ・ 地元で一番苦労した点としては、23日以降、延焼が拡大したため、活動隊員が増加し、携帯無線が不足したこと。その結果、指揮本部や消防本部とのやりとりで活動隊の各個人の携帯電話を使用してもらうことになってしまった。
- ・ また山間部での活動だったため、場所によっては無線機の不感地帯があり、苦慮した。

【小林委員】

- ・ 今回の空中消火はずっとヘリで実施している。諸外国では飛行艇等も活用していると聞いているが、そのあたりに関して認識はいかがか。

【事務局】

- ・ 諸外国ではヘリコプターと併せて飛行艇等を用いて、空中消火が実施されているところである。また、先般、国会から、今回の林野火災の検証作業の一環として、仮に飛行艇を活用した場合はどういった運用が可能だったのか等を検証するよう求められているところである。
- ・ 当検討会において、飛行艇の性能やメリット、海外での活用実績等も調査するとともに、日本においてどういった運用上の課題があるのか等を整理・調査してまいりたい。
- ・ また、実災害、今回の足利林野火災等で仮に飛行艇を活用した場合、どういった消火効果等があったのか等について、併せて検討、シミュレーションしてまいりたい。

【木下委員代理】

- ・ 今回の林野火災について、鎮圧から鎮火までにほぼ2週間という長い時間がかかっているのはなぜか。

【三浦委員】

- ・ ある程度の抑制はできるものの、地面に相当落ち葉が積もっている状態で、少し掘ると繰り返し火種がでてくるという状況であったため、最終的な火種を消すことに非常に苦労されたと聞いている。

【布施オブザーバー】

- ・ 過去にも両崖山では林野火災があったということと、雨の予報もなかなかないということで、鎮火の判断について慎重になったと聞いている。

「第1回より効果的な林野火災の消火に関する検討会」出席者名簿

【委員】

新井場 公德	消防庁 消防研究センター 地震等災害研究室長
荒竹 宏之	消防庁 国民保護・防災部 防災課長
射場 隆昌	防衛省 防衛装備庁 プロジェクト管理部 事業監理官
北澤 剛	消防庁 国民保護・防災部 広域応援室長
木下 仁	林野庁 森林整備部 研究指導課長
(代理 増田 義昭)	林野庁 森林整備部 研究指導課 森林保護対策室長)
小林 恭一	東京理科大学 総合研究院 教授 (座長)
島田 勝則	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官 (災害緊急事態対処担当)
(代理 田宮 庸裕)	内閣府 政策統括官 (防災担当)付参事官 (災害緊急事態対処担当) 付企画官)
平本 隆	帝京大学大学院 研究科総合工学専攻 教授
藤川 典久	気象庁 総務部 参事官 (気象・地震火山防災)
三浦 宏	消防庁 予防課 特殊災害室長
山本 登	東京消防庁 装備部 航空隊長
吉川 徳等	防衛省 統合幕僚監部 運用部 運用第2課長

【オブザーバー】

山下 雄史	内閣官房 参事官 (事態対処・危機管理担当)
平井 一彦	国土交通省 航空局 安全部 運航安全課長
早坂 誠	東京消防庁 警防部 特殊災害課長
布施 克通	東京消防庁 警防部 副参事 (指揮支援隊長)
佐藤 雅彦	栃木県 県民生活部 消防防災課長
亀山 浩之	足利市 消防本部 警防指揮課長
飯田 励	新明和工業(株) 営業企画部 防衛営業課長
(代理 藤本 記永)	新明和工業(株) 航空機事業部 技術部長)